

シシウド

渋谷 恵

携帯の待ち受け画面にしてある花です。

2014年8月、白馬で見かけた花でしたが、どこで撮影したか忘れてしまいました。

開花時期 8月から11月

花の色 白

分布 日本固有種 本州から九州にかけて分布

生育地 山地の草原など

植物のタイプ 多年草

大きさ・高さ 1~2メートル



茎先に複数の散形花序を出し、小さな白い花をたくさんつけ、まるで花火が開いたように見える。

花弁は5枚で内側に曲がり、雄しべは5本、雌しべは1本。

葉は2-3回羽状複葉で、互い違いに生える（互生）。

羽状複葉というのは、鳥の羽のように左右に小さい葉がいくつかが並んで1枚の葉が構成される。

本種は2-3回枝分かれをし、それぞれの先に羽状複葉をつけて1枚の葉となる。

今年は九州と北海道の花を訪ねました

川田 晃



九州阿蘇山・仙酔峡の群生するミヤマキリシマ

今年の6月初旬、火の国熊本の阿蘇山を訪ねました。静かな人もまばらな仙酔峡からの阿蘇への道には計らずもミヤマキリシマの群生が迎えてくれました。感激！感激！



7月17日には北海道 知床半島を訪ねました。なんと世界自然遺産登録5周年の記念日でした。天気も回復して羅臼平は色とりどりの高山植物に覆われ、お花畑の美しさに感動し、翌日再び同じところを訪ねました。

上の写真2枚は北海道知床半島羅臼平の高山植物の花々です。エソノツガザクラ・エソノコザクラなどなど

ウマノスズクサ(馬の鈴草)とジャコウアゲハ(蝶)

吉田 幸



ウマノスズクサの名前の由来は、花の形が馬に掛ける鈴に似ているのでこの名前が付いたとの事です。

生育地は関東地方以南の日当りのよい河原に生え、ツル性で葉っぱはヤマイモ、ヘクソカズラに似ていて夏に小豆色の目立たない小さな花をつけます。

冬が近づくと葉っぱは枯れますが根は残り、春になると新芽を出す宿根草です。

『ウマノスズクサ』の何よりの特徴は『ジャコウアゲハ』の幼虫(イモ虫)の食草です。葉っぱには毒性があります。

『ジャコウアゲハ』の幼虫はその葉っぱを食しますので、毒を持った幼虫は鳥の餌になることなくサナギになり無事に羽化します。

今年の夏、知人より『ジャコウアゲハ』が産卵した『ウマノスズクサ』を頂き飼育していましたが、幼虫は食欲旺盛で坊丸主の危機!!しかし、それに負けずに新芽を出す『ウマノスズクサ』の生命力に感心しました。



そして、何匹(蝶は専門的には”頭”と数え、一般的には”匹”で良いそうです)か羽化して無事に飛んで行きました。来年はうちの『ウマノスズクサ』を探し当てて飛んで来て貰いたいものです。

写真は、

上、ウマノスズクサ(ネットより引用)、
中、ジャコウアゲハの幼虫とサナギ、
下、羽化したジャコウアゲハです。

さんかよう[山荷葉]

佐藤 達



2010年6月ごろ白神山地の一角に藤里駒ヶ岳、出会ったのがサンカヨウの花です。朝露に濡れた咲いたばかりのサンカヨウは透き通っていました。その透明感によって美しさを増しています。

花好きの皆様にはありふれた高山性の植物ですが、私にとっては新鮮な白さと葉の形が印象的でした。

余談ですがその時の藤里駒ヶ岳は有名なブナ的美林があるということでしたが、観光化され、開発は行き届き見られるものは中ぐらいのものばかりでがっかりです。ま

だまだこれ以上の素晴らしいものは東日本の各地あります。これが世界自然遺産の玄関口とは。

その時にであった漢字が「岱 たい」という文字です。地名は岳岱という名の湿原です。岱は岱、山の上にある湿原のことをいうそうですが、この字は一文字でその場所を印象付ける漢字でした。これも知りませんでした。サンカヨウと余談でした。



花は茎の先に3輪から15輪くらいまとまってつく。白い花びらは6枚あり、中央に黄色の雄しべと黄緑色の雌しべがある。大きな葉は中央部が切れ込み、周囲は不揃いのぎざぎざがある。この大きな葉を、2股に分かれる茎の上部に1枚ずつつける。

花ごよみ NO 46 2015.08 月号

データ不明

花ごよみ NO 45 2015.07 月号

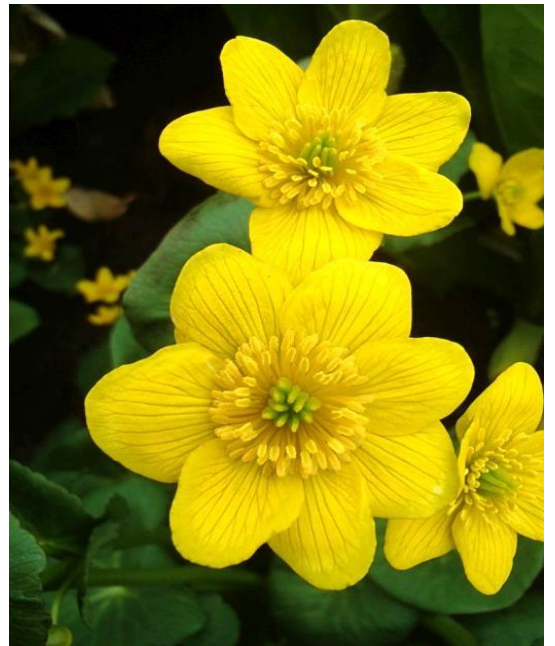
花ごよみ NO.45

リュウキンカ[立金花]

金子 貴



はなごよみの歴代の記事を読み返して、まだ取り上げられていない花はないかな？と探してみました。今年6月に訪れた尾瀬で水芭蕉とともにたくさん咲いていたのが、リュウキンカです。くっきりと鮮やかな黄色の花で、群生している様子は、梅雨時の晴れ間に姿を現した残雪の至仏山、燧ヶ岳、水芭蕉とともに目に焼き付きました。



分類：キンポウゲ科リュウキンカ属、多年草。開花時期：5月中旬～7月上旬。
花言葉：必ず来る幸せ。

さんかくてんのWeb マガジン・ホームページ

(<http://sankakuten2.web.fc2.com/>) では、これまでのはなごよみの記事を掲載しています。綺麗な花々の写真をカラーでご覧ください。

ラショウモンカスラ(シソ科ラショウモンカスラ属)

飯嶋 龍

(名前はこの花を、渡辺綱が羅生門で切り落としたとされる鬼女の腕に見立てたものとされる。(ウィペディアより))



5月24日 上高地から槍ヶ岳にのぼった時、堤さんに教えていただきました。

花全体に生えたトゲと形がいかにも鬼女の腕といったところですよ。

でも、よく見ると紫色でかわいい花ですね。

今回は、ゆったりとした計画で、槍沢ロッジ泊りだったので、登山道の周りの花を楽しみました。

時間をかけて見ると本当にたくさんの花々であふれていました。



サンカヨウのつぼみから開花した状態への変化を見ることができました。もちろん、ニリンソウの大群落も見て、星空の天の川を見る思いでした。写真を撮るのにも時間をかけて、ほんとうに幸せな時間でした。みなさん、たまには時間をかけて山を楽しみませんか？

徳澤園の清流の前のニリンソウの群生地です。天の川に見えませんか？

イチリンソウ(一輪草)

和久井君



伊豆天城八丁池ハイキングに出かけた折、下山した天城峠バス停横の小さな草地に咲いていました。

私が、前回紹介したのは上高地のニリンソウでした。

今回はイチリンソウですが、わざと安易に2から1に決めたわけではありません。

たまたま咲いていたのが、意外にかわいらしかったので写真に撮ってきました。

書いているときに{あっそうだ前回はニリンソウだった}と思いだしたのです。

数字の付く花に縁があるのかも。今度は三輪草？に出会えるのかな！

あそこと、ここと、そこにと言うように数えられるくらいにしか咲いていませんでした。

写真は得意ではありません。デジカメを駆使して、やっとの思いで撮れた写真です。いとおいしくらいかわいいな—と思った瞬間でした。



シラネアオイ、ウサギギク、コマクサ、ラムズイヤー

関山 聡

(動物の名のついた花々)

シラネアオイ

タチアオイ

ウサギギク



高山のお花畑に咲き乱れる花々は、登山途中の人の目を楽しませ、疲れた登山者をやさしく出迎えてくれます。高山植物に限らず家の周りや都会の道端に咲く花々も、やすらぎを与えてくれ、忙しい毎日の疲れを癒してくれます。(野道で小さな花を見つけて、思わず笑顔になりますね。)ここに登場する私の大好きな花々は、いずれにも動物の名前がついています。ちょっと待って下さい、おかしいですよ? シラネアオイは動物の名前などついていませんよ。おっとどっこい! シラネアオイは日光の白根山で最初に発見され、立葵(タチアオイ)の花に似ているところからこの名前がつきました。タチアオイは別名コケッコウ花とも呼ばれます。花卉の根元が粘着質で、引き抜いた花卉を顔に付けてニワトリを真似てゲラゲラ笑って遊びました。ですからシラネアオイは動物と無関係ではないのです。こじつけでしょうか。北海道の低山でもよく見かけました。ウサギギクという名前は、茎の下の方にウサギの耳のような長い葉をつけているのが由来のようです。茎は直立をし、茎や葉にはやわらかい毛が生えています。花の色と草姿が好きなのです。コマクサは一度見たら印象に残る独特の草姿をしています。砂礫がいつも動くような、他の植物が生育できない厳しい環境に深い根を張り生育する美しい花であることから、高山植物の女王と呼ばれています。大雪山系赤岳に銀泉台から登った時によく見ました。駒草平という地点あり。ラムズイヤーは、その葉っぱの形状や手触りが「羊の耳」のようであることから名づけられています。葉や茎は銀白色の綿毛に覆われ、直立した茎に桃色の花を穂状につけます。葉の毛並みはなめらかでふわふわした触感で、触れているだけで癒してくれるユニークなハーブです。高山植物ではありませんが、小樽の留守宅で元気に毎年花を咲かせてくれます。



ウスユキソウ(エーテルワイス)

日比野晶

私はこの花が好きです。利尻岳へ登った時、礼文島にも足をのばし、レブンウスユキソウに会ってきました。早池峰山に登った時にも尾根一面に咲いていた早池峰ウスユキソウを写真に収めてきました。そしてダークダックスのCDを買って「エーテルワイス」の歌を時々聴いています。また映画「サウンド・オブ・ミュージック」の中で歌われている「エーテルワイスの歌」を連想します。



キク科、多年草、原産地=アジア、ヨーロッパの高山地帯



ハヤチネウスユキソウ



THE SOUND OF MUSIC

オーストリア帝国の貴族で海軍の退役軍人・トラップ大佐(クリストファー・プラマー)が恋心を抱き始める家庭教師・マリアと7人の子供たちにせがまれて、ギターを持ち昔を懐かしむように情感を込めて歌いあげる「エーテルワイスの歌」を思い出します。

この素晴らしい映画は4~5回見てしまいました。ナチスの執拗な追及を受けながらも、修道院の人達に守られて、ファミリー9人が徒歩でアルプスの山越えをするシーンは何とも言えません。まだ見ない方は、ぜひ鑑賞することをお勧めします。

ナンバンギセル
南蛮煙管

松下 宮



ユニークな名、ユニークな花、写真では見たこと有りますが、実際に見たのは八丈富士で初めてでした。ススキの根元にピンクの花が…次々とお目にかかり…感激でした。嬉しくて沢山、写真を撮りましたが、残念ながらピンボケばかり。まともなのは一枚のみでした。近くでは港区の自然教育園に咲くらしいです。

ナンバンギセル (ハマウツボ科) 草丈
10~20 cm 1 年草
2014/10/5 写

他の植物 (ススキ) の根に寄生して、そこから養分を取ながら生育する寄生植物。葉緑素を持たないがゆえに自分で光合成して成長することができません。発芽して成長し夏~秋に開花し種を結んで枯れる 1 年草です。

花の形が南蛮人 (昔のポルトガル人やスペイン人) の用いたパイプの “キセル” の形に似ているところからこの名になった。



「道のへの 尾花が下の 思ひ草 今更さらに 何をか 思はむ」 万葉集

カラマツ

内藤 彰

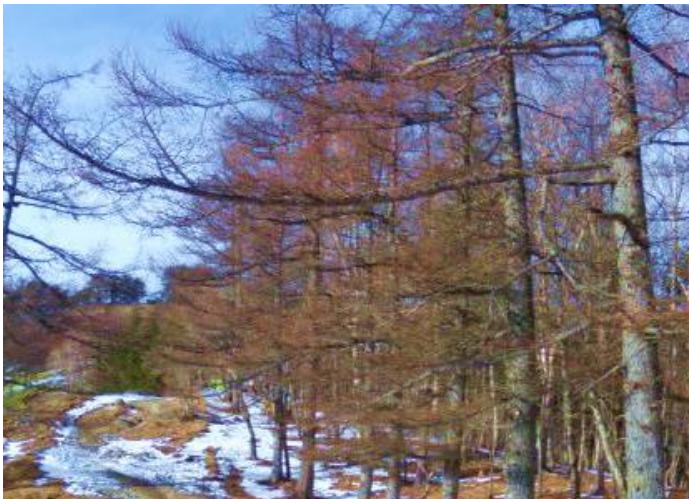


もう10年も前のことになると思う（記録が見つからない）が、大晦日の日、雲取山荘に泊って、翌正月1日、石尾根を下ったことがあった。大変良い天気です。尾根の両側のカラマツの黄葉が朝日を浴びて金色の針のように散るのを見た。幸せな気分になった。この素晴らしさを人にも紹介しようと思った。カラマツの林をすぎて妙齢のご婦人（当時は山ガールなど生存していない）に追抜かれた。当時は膝の調子も悪くないので懸命に追ったが振り切られた。そんな思い出と共にある。



が、時季である。暮、正月だとばかり思っていたから、先日、頃は良いと雲取山に出かけてみた。見事に散り終っている。自分の記憶があてにならないのか、それとも季節が変化したのか。悔しいから、カラマツの枝に霜の載っている写真も撮って来た。

〈カラマツ〉落葉松と書くのはあて字。日本の固有種で、短枝に束生する葉を唐絵に描かれたマツに例えて唐松と名づけられたという。富士山、浅間山、八ヶ岳山系に多く自生する。北限は蔵王山系の馬ノ神岳、南限は静岡県の天狗石山、西限は白山とされている。植え付け後20~30年で利用できることで林業材として脚光を浴びたこともある。雲取のカラマツは植林であろう。黄葉スポットは黒斑山、瑞牆山、鳳凰三山の観音岳。



冬紅葉 — 講談社野間記念館

林 朋



ありふれているようだが紅葉。できるだけ遅く出かけてほしい。もう紅葉も終わりだなと思う時分、木枯 1 号も吹いたあとの 12 月上旬がいい。ひとつ条件がある。晴天・これが必須。遠くからみる紅葉は色を失って茶色にちかい。葉はすっかり乾いて、赤ん坊の手に例えられる「紅葉の手」は老婆の手のようにでれんと下に垂れているが葉はしっかりと枝についている。近づいて紅葉の傘の中まで歩いてからゆっくり上を見上げてみよう。上空の陽を透かして、なんと真っ赤、真紅、深紅の紅葉を見ることができる。11月の紅葉は黄色が混じっている。それはそれで美しいのだが、真紅・深紅の紅葉は日をかさねないと見ることができない。紅葉に人間の老境をかさねて、ほれぼれとしてしまうのだ。



川合玉堂《寒庭鳴禽》

おすすめするのは、都心の庭園美術館。私が初めてこんな紅葉に出会った場所である。

もう一つのおすすめ

講談社 野間記念館 東京都文京区関口2-11-30

現在の展示 「四季礼賛」

2014年11月1日～12月14日

午前10:00～午後5:00

(入館は閉館の30分前まで) 入場料 500円

休館日 展示期間中の月・火曜日 (祝休日の場合はその翌日)



川合玉堂《溪村秋晴》

ワレモコウ

和久井 君

今年の9月の初め、妙高高原に出かけました。

花の名前をどうしても覚えられない私です。

そこで、自然観察と言う名目で生け花の先生をお誘いして出かけてみました。

里山にソバの花はきれいだった。ワレモコウは生け花に使ったのでわかった。他の花たちはとて言えばいろいろで、何の花だったか。

花の本を忘れてしまい、なんの花？写真を摂ればピンボケ。

どうも、こういう事には縁がなさそうだと半ばあきらめ、景色ばかりを堪能して帰ってきた。



ワレモコウ (バラ科)

高さ70~100cmの多年草。

葉は奇数羽状複葉で小葉は長楕円形。

枝先に暗赤色で円頭状の花序をつける葉は夜とじる。花びらはない。和名の意味ははっきりしないが「吾(わが国)の木香」の意味かもと。ただし、木香の香りはない。



サンカヨウ

福井 真

7月 白山に登った時に会ったサンカヨウです。

山の管理をされている方が、「今、白山で見られる唯一のサンカヨウです」と教えてくれました。

フキにも似た大きな葉に純白な白い花が可憐です。

雨が降ると花びらに水がしみこみクリスタルな花になります。

この日の天気は小雨で、クリスタルな花を見る事が出来ました。



タカネナデシコ

渡辺 綺

一昨年の8月に白馬～雪倉～朝日を縦走した時に雪倉岳のお花畑で見つけました。沢山の色とりどりのお花の中で可憐で繊細な趣きのピンクのお花がなぜか気になってました。そして今年の8月、三国境から白馬への途中で再会しました。雪倉岳では雪渓近くのお花の群生地、今回は登山道の岩礫地に咲いていました。

5枚の花弁を持ち、北海道、中部地方以北の高山帯の岩礫地、草地に咲いていることがわかりました。



柵池自然園のギンリョウソウとキヌガサソウ

小関 英

4葉とも、一昨年7月に柵池自然園で撮りました。



上の写真2枚は、ギンリョウソウです。やせ尾根の途中で、はじめて見つけました。狭い道で後ろがつかえてしまうため、落ち着いて撮れませんでした。

思っていたものより小さかったです。写真1枚目は下の方に小さく写っています。



キヌガサソウです。

ギンリョウソウとは反対に大きいです。葉っぱを含めた全体がです。

ギンリョウソウは日陰で光合成しません、キヌガサソウは太陽の下、この差でしょうか。

花ごよみ No32

ちんぐるま

山本暁

高い山に登ると必ず逢える“ちんぐるま”です。花もかわいいけれど、花から種になるまでの変化がとても綺麗で、面白くて、出会うとカメラを向けていました。ちんぐるまの咲く山にまた行けるでしょうか。行きたいなあ。

チングルマ

高山の雪田跡や砂礫地周辺で大きな群落をつくる。花は白色、花弁は5個で基部は黄色い。果実の形が稚児車のイメージでこの名がついた。

(Gakken 高山の花より)



しずくがなんととも綺麗でした - 南岳



大きな岩の間に - 黒部五郎下り



どこだったかなあー



天国ってこんな所かなあ - 大雪裾合平



まさに稚児車でした - 白馬大池

花ごよみ No.31

水芭蕉の尾瀬

三部 律

2年前の5月下旬の尾瀬です。
まだまだ、厳しい寒さのなか、広範囲に数多くのミズバショウが咲き、まわりの景色とひとつになって素晴らしい景色でした。

寒さも忘れて、水芭蕉に会いに来てよかった。とてもきれいで、見事でした。

水芭蕉の花言葉通り「美しい思い出」……。

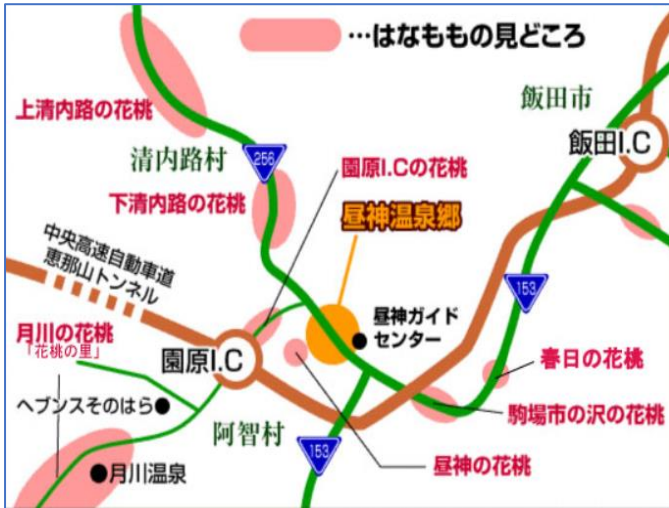
もう一度行ってみたいなあと思える場所です。



— 里山の花 はなもも —

新美 英

飯田では4月上旬あたりから桜が咲きはじめ、その桜が終わり、色鮮やかな「はなもも」の季節に入る。赤、白、桃色、紅白咲き分けなどと色の变化に楽しみがあります。



はなももは原産地は中国で花を觀賞するために改良されたモモで庭木などに利用されています。実はなりますが小さく、食用にはなりません。仮宅の畑の一角に2本の木があり、5月の初旬頃に華やかな彩りで目を楽しませてくれます。



飯田の隣に阿智村があり、そこにある昼神温泉のはなももや中央高速道園原I.Cの先にある月川の花桃(花桃の里)が有名です。伊那谷と木曾谷を結ぶ国道256線の清内路村から南木曾町にかけては、はなもも街道と呼ばれ、数千本のはなももが目を楽しませてくれます。

伊那谷では花期は4月20日頃から5月初旬が見ごろとなっています。

初夏の伯耆大山の花

山口 良

7月後半に石鎚山、剣山、伯耆大山と登り、その時の花です。

大山の弥山（1709m）の頂上付近には「クガイソウ」が一面に咲いていました。7月後半の時期で、穂のような花序に青紫色の小さな花を多数つけています。見ごたえがありました。



九合目辺りには「ヤマアジサイ」登山道横に咲いていました。

八合目当りの登山道横の岩場に「ホタルブクロ」がいくつかわかずに咲いていました。



「シモツケソウ」の花も咲いていました。

一早春を感じるロウバイの花一

和久井康

植物に大して興味がなく、うとい私でも早い春の訪れを知らせてくれる存在にはいとおしさを感ずります。一月中旬に、よく散歩に出かける「しながわ区民公園」に出かけてみました。どこからともなく香りが漂ってきますが、「あ、ロウバイが咲いているかもしれない」とすぐに思い浮かべるくらいの強い香りです。咲いていました。もう満開に近い状態でした。

わずか4～5株しかないのですが、以前にもある新聞で紹介された事があり、季節の移ろいを感じさせてくれます。カメラを向けている人もいて、「今年はきれいに咲いている」なんて話を聞いていると見入ってしまいました。

パソコンで調べてみると、「中国名も蠟梅であったことにちなむ。花卉が蠟のような色である。花やつぼみから抽出した蠟梅油を薬として使用する」とありました。

高橋さんに促されて渋々引き受けたこのコーナーですが、思わぬ勉強になりました。近場でも、興味をもってみればいろいろな発見がある事を知り、楽しみが増えました。



花ごよみ No.27

ーブーケをさがしてー

橋本 雅

山に行く楽しみの一つにかわいいお花に会えるということがあります。そしてそれを写真にとって家に持ち帰り、また見て2度楽しめます。背景に景色を入れるのも好きですし、最近は花がまとまっていてブーケのようにになっている場所をさがしています。

右の写真は 2003 年に Cape Breton, Canada で撮った「ブーケ」に目ざめた時のものです。下の 12 枚は 2003 年～2013 年に北アルプス・赤石岳・白山・サンモリッツなどで撮った「ブーケ」です。

全部の花がよい状態になっていなくてはなりませんのできょろきょろして歩いて歩くのも遅くなってしまいます。ことしもまたブーケがふえたらいいです。



タカネシオカマ
イワツメクサ (雪倉岳)



エソムラサキ
(スイス)



高嶺ヤハスハハコ
エソシオガマ (小蓮華)



サクシフラカ・アイソイ
デスコモン・ヘアベル
(スイス)



イフキジャコウソウ
ミヤマセンキュウ (雪倉)



氷河キンボウケ
マーガレット (スイス)



立山ワツボクサ
白山沙参 (朝日岳)



ヒメウスユキソウ
タカネツメクサ (空木)



イフキジャコウソウ
タカネシオガマ (雪倉)



チンクルマ・イワカガミ
ハクサンイチゲ (白馬)



ハクサンフワロ
嶺薄雪草 (赤石岳)



タテヤメリンドウ
イワオトギリ (白山)